

オフィスシステムにおけるOA処理体系

3X-2

幡鎌 博, 古川 利満, 長田 格

富士通株式会社 OAシステム事業部

1. はじめに

オフィスの効率化をより進めるために、オフィスシステムでのソフトウェアの統合化が求められるようになってきている。

統合OAソフトウェア「EPOC-G」は、FACOM Gシリーズワークステーション上で各OA処理機能をサポートするオブジェクト指向の統合ソフトウェア群であり、これらの間ではデータの共有や連携機能などによって互いの機能を生かすような工夫を行っている。

この論文では、オフィスシステムのソフトウェアに要求される特性を考察したうえで、それらの特性を満たすために、ソフトウェア体系/連携機能の点で「EPOC-G」がどんな対応をしているかを述べ、オフィスシステムでの統合ソフトウェアの在り方について考察する。

2. オフィスシステムの考察

DP(Data Processing)の世界と比較して、オフィスシステムのソフトウェアには次のような性質が要求される。¹⁾

- (1) 広い利用者層を対象とできること。
 - ・ システム管理者・専任オペレータのみが使うわけではない。
- (2) いろいろな情報のタイプを扱うことができること。
 - ・ 文書/イメージ/線画/表データ/データベース/グラフなど、さまざまな種類のデータタイプが存在する。
- (3) 情報を構造化して管理できること。
 - ・ 例えば、文書に絵やグラフを組み込んだり文書を章ごとに管理したりしたい場合もある。
- (4) 情報を効率よく生かすことができること。
 - ・ いろいろな形に情報を生かしたい。例えば、データベースの情報を文書に取り込んだりグラフ化したい場合もある。
- (5) 柔軟なシステム構成が可能なこと。
 - ・ 業務の拡張や変更に合わせて、システムも随時拡張や変更ができることが望まれる。

3. 「EPOC-G」のソフトウェア体系

統合化の工夫はデータ(オブジェクト)の管理にある。プロダクトの構成としては、ユーザで欲しい機能のみインストールできるように、機能単位でプロダクトを分けている。一方、作成された各データにはオブジェクト属性が付加され、その属性により各データに対してどのプロダクトがどんな処理ができるかが保障される。そのため、関連するプロダクト間で同一のデータを扱うことができ、統合化を促進している。

表1.ソフトウェア構成

分類	プロダクト	処理対象属性
文書処理	日本語文書処理支援 日本語文書作成支援 日本語文書処理	日本語文書 日本語文書 欧文文書
図形イメージ処理	線画処理 イメージ処理	線画 イメージ
オフィスデータ処理	表計算処理 グラフ処理 リスト処理 カード処理	表 グラフ、表 リスト、カード リスト、カード
マイクロインフレームリンク処理	キャビネットサービス =[リモートオブジェクト一覧] メールサービス データベースサービス	すべて すべて すべて データベース、(ホストDB)
その他	文字バトン処理 カレンダー処理 手続き処理	— — —
共通システムブラウザ	[オブジェクト一覧]	手続き、リスト、カード すべて

さらに、一般的な機能選択によるプログラム起動と共に、システムブラウザでのオブジェクトの一覧画面から、オブジェクトを選択し処理選択(メッセージパッシング)を行うことで、そのオブジェクトに対しての処理を行う(処理できるプログラムの起動)機構を持ち、「どの情報」に「何がしたい」という意図をそのまま操作に反映できる。図1の例では「日本語文書処理」の印刷機能が起動される。【2.(1)(2)の要求に対応】

基本	編集	画面	検索	作成	ディスク	拡張
更新 印刷 登録 変換	オブジェクト名 REPORT1 REPORT2 TABLE1 LIST1 MAP1	オブジェクト属性 日本語文書 日本語文書 表 リスト 線画	オブジェクト一覧	表題 開発計画 工程報告書 モジュール集計 要望連絡票 宴会場所の地図	—	—

図1.オブジェクト一覧画面

4. 操作方法的統一

各プロダクトの操作方法を合わせることで、ヒューマンインタフェースの向上を狙っている。

「EPOC-G」の各プロダクトは、初期メニューやプルダウンメニューなどのオペレータと対話する部分で、操作方法を可能な限り合わせてある。

